

# 下部尿路閉塞の3次元モデルの作成と仮想内視鏡画像による診断法の有効性の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-12-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 青木, 裕章 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001468">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001468</a>

順天堂大学 博士(医学)

氏名 青木 裕章

論文題名 下部尿路閉塞の 3 次元モデルの作成と仮想内視鏡画像による診断法の有効性の検討

(Diagnostic study of the usefulness of virtual endoscopic images and 3-D modeling for lower urinary tract obstruction)

論文内容の要旨

(目的) 排尿異常を訴える患者の下部尿路の仮想内視鏡像を作成することで、形態の外観からの観察と内腔からの観察を行い、病態をより正確に評価する検査法について検討した。

(対象と方法) 対象は 2009 年 3 月から 2010 年 10 月までに排尿異常で受診した男児のうち排尿時膀胱尿道造影 (VCUG) で下部尿路閉塞疾患が疑われた 22 例 (5.13 歳, 中央値 9 歳)。22 例中 11 例を無作為に抽出し、排尿時にコンピュータ断層撮影 (CT) を施行した。脱落した 1 例を除く 21 例を CT・VCUG 併用群, VCUG 単独群に分け、画像所見と膀胱尿道鏡 (CS) 所見の一致率, 内視鏡手術後の症状の改善率を比較した。

(結果) 術前診断と CS 所見との一致率は CT・VCUG 併用群では 72.7%, VCUG 単独群では 33.3%であった。尿道病変部に対して経尿道的内尿道切開 (TUI) を施行し CT・VCUG 併用群では著効 2 例, 軽快 6 例で、奏効率は 72.7%, VCUG 単独群では軽快 5 例, 奏効率 50%であった。

(結語) 小児の下部尿路閉塞疾患に対して仮想内視鏡検査の方法を提示し、その有効性を検討した。従来の画像診断と組み合わせることで、より正確に排尿異常の部位診断が可能となり、手術成績の向上に寄与することが示唆された。今後機器の発達に伴い、膀胱尿道鏡や排尿機能を補完する検査へ発展する可能性も示唆された。